



<研究主題> 一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して  
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

第2号は、中学部授業研究会（グループ研、公開事前研）で話題になったことを紹介します。

## 協議テーマ

- ・ 目指す姿が授業の中でどのように表れていたか  
【一人一人（特に抽出生徒）が、学んだことを実感し、気付いて考えて取り組む姿】
- ・ そのための手立て（学習活動、教材・教具、場の設定、教師の働き掛け）は適切か

### ★単元名★

中学部3年 生活単元学習 「スマイル中3～校内の友達にゲーム屋で楽しんでもらおう～」

### ★授業説明★

- ・ 中3の18名で、昨年度から「ゲーム屋」の単元に取り組んでいる。
- ・ 抽出生徒は、昨年の経験を元に、店長として「ゲーム屋」の進行をしたり、自分の役割以外にも目を向けたりできるようになってきた。
- ・ 本時は、学年の友達に向けて開店し、アンケートや振り返りを通して「ゲーム屋」を改善した。

### ★協議から★ 良かった点（青い付箋）

- ・ 抽出生徒→店長としての役割（進行役）を自覚◎  
余裕はなく早口だったが、友達の役割のサポートもできていた。
- ・ 新しい取り組みの中で、過去の経験から考え、悩むことで「力」になっている。
- ・ 生徒同士による「ゲーム屋」の改善に向けた意見交換◎



### ★協議から★ 改善点（赤い付箋）

- ・ お客さんに「伝わる・伝える」手立ての工夫・・・何のために、どうしたら伝わるかを考えさせる。
- ・ 生徒の実感につながるように、良い点も課題も即時評価して定着させる。また、めあてを個別に意識付けさせることが、振り返りにつながる。
- ・ 個々の役割設定や活動量、教室内の動線等を見直す。

<指導助言> 天王みどり学園 校長 佐々木 孝紀 教頭 伊藤 敏博 福士 智子

- ・ 単元計画について～この後保護者が招待された際、「こどもたち、すごいな」と思われるような積み重ねを。
- ・ 評価について～「お客を楽しませること」と「係を頑張ること」2つ目標があり、本時のゴールが分かりにくかった。また、対象生徒がゲームを進行する際、お客に「伝わった」と実感できる手立てを考えてほしい。
- ・ 役割分担について～活動量や複雑さが生徒に合っているか再考してほしい。
- ・ 活動内容について～生徒がゲームを楽しんでいるか、客に来てほしいと思っているか。「VS嵐」などを参考に、見ている人もわくわくして楽しめる工夫を。

## before

閉店後の自己評価と、タブレット端末を活用した、全員での振り返りを行った。進行役としての説明の分かりやすさや、客が楽しめるかなど、「改善が必要」という実感をもてなかった。

改善しました

「評価の工夫」

## after

・ 教師による即時評価と、アンケートを活用した他者による評価を組み合わせることで、説明が伝わっていないことに気づき、自主的な改善へとつながった。  
・ 動画を見ることで「説明が早口だった」という気づきにつながった。

## ★単元名★

中学部3年 生活単元学習 「開店！全カショップⅡ～中学部夏まつりで開店しよう～」

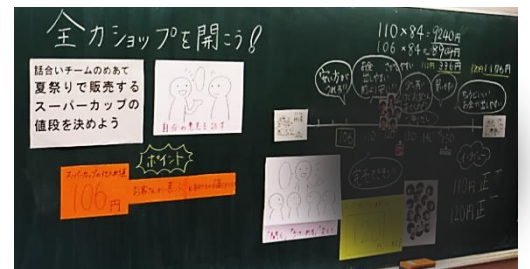
## ★授業説明★

- ・「協力」や「自分から取り組む」姿を目指す単元。
- ・昨年は「全カカフェ」を開店。調理や接客をしたが、今年はそれができず、個包装のお菓子を販売する「全カショップ」を開店する。
- ・本時は、販売価格を決める話し合いを行い、自分の考えを話すことを目指した。まだ教師の支援は必要だが、理由をつけて考えを話せるようになってきた。



## ★協議から★ 良かった点（青い付箋）

- ・板書で生徒の発言、心の動きを可視化・図式化→分かりやすい
- ・制作グループ：何を、どのくらい作ったらOK→分かりやすい
- ・書く、話す、インタビューする、などいろいろな要素の活動が入っている。
- ・教師が友達の意見を書いて伝える→理解、納得する姿◎



## ★協議から★ 改善点（赤い付箋）

- ・話し合いのテーマを工夫  
→値段を決めるのは難しい？ゴールが分かりづらい？「お客」と「もうけ」どちらがメインになる？必要性は？生徒が意欲的に夢中で話し合うテーマを。
- ・話し合いの方法を工夫  
→教師の仲介の仕方。配置、グループ分けの工夫。教師の役割分担。生徒同士の話し合いにつながるように。

## <指導助言> 秋田県総合教育センター主任指導主事 神部 守 氏

- ・板書の数直線→生徒たちの思考の共有ができた。ワークシートの活用→話しやすくなっていた。
- ・話し合いは6人全員が発表し、考えを深めるまでは良かった。そこから教師がポイントを整理し、次に何を話し合うのか示す必要がある。
- ・制作グループの動線が良かった。シールの位置や色などが決まっていたが、生徒に考えさせても良いのでは。
- ・まとめでの板書をもう一工夫。生徒がどこを見ればよいのか、次に何を頑張るのが分かるように。
- ・評価はポイントを絞り、シンプルに。花丸で評価したとき、多くの生徒が注目していた。
- ・生活単元学習はわくわく、チャレンジしてみようという仕掛けが必要。先生方も楽しみ、本物に近い活動を。想像力を働かせ、子どもの姿をイメージして子どもからスタートした授業づくりを。そして、子どものせいにせず、取組にに応じて指導を見直していきたい。

### Before

自分の意見を伝え、相手の意見を聞くことはできるが、互いにやり取りして考えをまとめることが難しい。教師との一対一のやり取りが多い。

改善しました

### <発問の工夫>

「みんなは、どう思う？」

### After

生徒の発言を教師が取り上げ、「みんなは、どう思う？」と全体に投げかけると、それに対する意見が次々に出て、活発な話し合いになった。自分の発言が受け止められ、自信につながった。